
真実を知った時

martini

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真実を知った時

【Nコード】

N5646F

【作者名】

martini

【あらすじ】

ある日、赤井が見つけた少女。その少女は、赤井が何を聞こうと、名前しか答えない。固く口を閉ざしてしまっている。そんな中、黒の組織との決戦も、刻一刻と迫っていた。そして、意外な事実が判明した・・・その事実とは何か？少女はいつたい何者か？真相を知った時、彼等はどうするのか・・・？これはオリキャラ（？）が出てきます。&赤井×オリキャラ（？）です。嫌な方は今すぐBACKしてください。それともうひとつあります。‘魔女の運命’などのあまり更新していない小説は、誠に勝手ながら、削除させていただきます。

ただきました。楽しみにしていた皆さま、申し訳ございません。今後とも、宜しくお願い申し上げます。

FILE 0 プロローグ

ザー・・・

今日は、あいにくの雨。

夜中に、急に降りだしたのだ。

ある男は、そんなことを気にも留めず、歩いていた。

濡れても、お構いなしのようだ。

男は、一人の少女を見つけた。

小さく体を丸めて、蹲つまづっている、少女を。

その少女は、その場から動かなかった。

男は、見かねたのだろう。

そつと手を差し出し、少女を立たせた。

そして、そのまま歩きだした。

少女は、逆らうことなくついていく。

雨は、さらに激しさを増していった・・・

FILE 0 プロローグ（後書き）

またまた連載してしまいました、martinniです！
すみません、本当に・・・

何回謝ったのでしょうか？

後、もう一個、連載を始めます。

どうか怒らないでください・・・（泣）

これからも、どうぞよろしくお願いします！

FILE 1 出会い

「で、さっき見つけたのがこの子なのね？ シュウ。」

ここは、杯戸中央病院。

FBIは、その一室を借りていた。

「ああ、風邪をこじらせそうだったし、何より夜は危ない。」

赤井はスツと、視線をそこにいる少女へと向けた。

「ねえ、お名前は？ 家族はどこにいるの？」

ジョディは、優しく少女に問いかける。

少女は、ゆっくりと口を開いた。

「……星野^{ほしの}未来よ……」

小さな声だが、静かな病室にはちゃんと響いた。

「未来ちゃんね？私はジョディ・スターリング。このニット帽の人が、赤井秀一。そしてこの人が、ジェームズ・ブラックよ。」

ジョディが、一通り赤井達を紹介した。

未来は、ジョディが説明しているときに、顔を覚えるため顔を上げたのだが、にこりと微笑まれ、また下を向いてしまった。

すると、赤井が未来のほうを向いた。

「宜しく。」

たった一言だった。

しかし、未来には、何かしら気持ちが伝わったようだ。

「・・・宜しく、赤井さん・・・」

2人は握手を交わした。

優しく、それでいて力強く。

未来は、ジェイムズとジョディの2人にも、握手を交わした。

住む家は、赤井の家ということになった。

未来は、少し嫌な顔をしたが、しぶしぶ承知した。

こうして、赤井の家に一人の少女が居候することになったのである。

しかし。

赤井達はまだ知らなかった。

この少女と出会ったことで、未来が大きく変わってしまったことを・
・

FILE 1 出会い（後書き）

どうも、martinniです！

読んでくださり、ありがとうございます！

今日は、塾もあり、忙しいのですが、合間を縫って来ました♪
頑張って完結させますので、どうか最後まで読んでください！
宜しくお願いします♪

FILE 2 警戒

次の日。

未来が来たことを知らないコナンは、FBIの部屋へと来ていた。

いつものごとく、情報が入ってきているかどうかを確かめるためである。

コナンは、その部屋に赤井が居ないことに疑問を抱いた。

「ねえ、ジョディ先生。どうして赤井さんが居ないの？」

「ああ、シュウ？おかしいわね、そろそろ来るはずなんだけど・・・」

「

ガチャッ。

ジョディがそう言った時に、ドアが開いた。

「あら、シュウ。それに未来ちゃんも。」

ジヨディが未来のもとへ駆け寄る。

「えっと、この人は誰？ジヨディ先生。」

コナンの問いには、赤井が答えた。

「名前は星野未来^{ほしのみら}。昨日の夜、道端で蹲^{うすくま}ってたんだ。詳しい事は分かってない。」

一通りの説明が終わると、コナンが未来の前へときた。

「僕、江戸川コナン！宜しくね、未来お姉ちゃん！」

「・・・子供は明るいわね・・・」

「そりや当たり前よ。子供は元気でなくっちゃ。」

ジヨディは、未来を見つめながら言った。

未来は、しばらくの間コナンを見つめると、口を開いた。

「・・・・・・・・ええ、宜しく。『江戸川君』・・・」

「!」

『江戸川君』。

年上で、自分のことをそう言う人はいない。

唯一、灰原がいるくらいだ。

年上である未来にそんなことを言われ、コナンは目を見開く。

コナンは、驚きで一瞬声が出なかったが、未来に向かって喋った。

「・・・・・・・・どうしてそう呼ぶの? 『コナン』、でいいよ。ねっ?」

未来に向かってにこりと微笑む。

「・・・・・・・・分かったわ・・・」コナン君「・・・」

未来はそう言うと、部屋を出て行くとする。

「おい、どこに行く?」

「家よ。仕事、頑張ってね。」

心なし、といったような言い方でそう言うと、未来は部屋を出ていった。

コナンは、そんな様子の未来に、少し不審感を抱いた。

「（星野未来・・・詳しい事は分かっていないんだっとな・・・警戒したほうがよさそうだが、赤井さん達は警戒している様子を見せない・・・心の奥では警戒しているのかもしれない・・・やはり警戒したほうがよさそうだな・・・）」

コナンが分かるのは、ただ、警戒したほうが良いということだけ。

ただそれだけだった。

今日は何もなかった。

しかし・・・

明日から、平和が崩れ去っていくことを、コナン達は知らない――

FILE 2 警戒（後書き）

どうも、martiniです！

今日、なぜかログアウトになっていて、混乱しました。

しかし、メモっておいたおかげで無事、投稿することができました！

そうそう。皆さまに質問が。

この小説の題名、‘警戒（今の題名）’と、‘崩れ去る’と、どちらがよいのでしょうか？

他にも、いい題名があれば教えていただきたいです。

今年最後の投稿になるかも知れませんね。

今のところ、スランプですので・・・（汗）

あと、あらすじにも書かせていただいたことについて。

‘魔女の運命’以外にも、何作か削除させていただいております。

知ってるものがあれば、何なりとお申し付けください。

ただ、中傷的なないようにするのはやめていただきたいです。

‘何で忘れてるんですか？’という質問についても、一切答えられません。

だいぶ前に削除したので。

皆さまの混乱を招いてしまったこと、深くお詫び申し上げます。
今後とも、宜しくお願い申し上げます。

それでは少し早いですが、最後に・・・

A , H A P P Y N E W Y E A R ! !

FILE 3 会議

「つまり、あなたは今日一日、一回も見えてないのね？」

「その通りです・・・」

「そう・・・あなた達も知らないの？」

「ああ・・・あたい達も知らないよ・・・」

「俺も・・・」

暗い部屋の中で、4人の男女が話し合っていた。

どうやら4人だけで会議を開いているようだ。

「それよりベルモット。『あの方』はなんて言ってるんだい？」

「ベルモット」

聞き覚えのある名前だ。

「ただ、ジンを探し出せ」としか言っていないわ。・・・キャンティ、コルン、ウォッカ。本当に今日一日、一回も見えてないのね？」

「本当だよ。」

「キャンティ」

「コルン」

「ウォッカ」

「ジン」

「あの方」

これも、聞き覚えのある名前だ。

「もしかして・・・ジンは組織を裏切ったのかしら・・・？」

‘組織’

もうこれで分かったであろう。

ここは黒の組織のアジトである。

「そ、それはありえないっすよ！兄貴が裏切るわけないじゃないですか！」

「そうだよ！あのジンが裏切るわけないよ！」

「俺も・・・そう思う・・・」

「・・・よね・・・最後に見たのはいつなの？」

ベルモットがウォツカ達に聞く。

「俺が最後に見たのは・・・昨日の夜っすね。」

「あたいもだよ。」

「俺も・・・」

「私もよ。つまり、昨日の深夜から朝の6時まで、ここから出ていったってことね。」

「そうっすね・・・」

皆はベルモットの言葉に同意する。

「とりあえず、もう一回探してから、あの方、に報告したらいいんじゃないのかい？」

「そうね・・・そうしましょう。集合は深夜0時。分かったわね？」

「分かりやした。」

「分かった・・・」

「分かったよ。」

こうして、ベルモット達は部屋を出て行った。

しかし・・・

驚愕の事実が自分達を待ち受けていることを、ベルモットたちはまだ知らない――

FILE 3 会議（後書き）

どうも、martiniです！
違うパソコンで投稿しましたw
最後じゃありませんでしたね♪
話が急に浮かんできたので！

この話のスランプは、脱出したようですw（他のはどうなってるんだ？！）

他のはまだスランプ中でございます。（おい！）

これからもよろしくお願い申し上げますw

またまたですが・・・

A・HAPPY NEW YEAR!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5646f/>

真実を知った時

2010年10月9日18時29分発行